

「令和4年度 第1回 にじバス協議会」の報告について

- ▶ 開催日時：令和4年5月12日（木）10時～11時30分
- ▶ 開催場所：小平市役所 601会議室
- ▶ 出席人数：・にじバス協議会…3人（欠席5人）
・傍聴…なし

1 挨拶・自己紹介・進行役の選出

- ・出席者の挨拶及び自己紹介
- ・出席者の承認を得て、進行役に小平商工会事務局長の森谷氏を選出

2 『「平成18年の市の公共交通に対する基本的な考え方」の取組のまとめ』について (資料1-①) (資料1-②)

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

- ・『「平成18年の市の公共交通に対する基本的な考え方」の取組のまとめ（報告書）』はできたばかりで、市民等の反応はこれからか。
 - （公共交通課）反応はまだない。本報告書は、市の公共交通に協力していただいている方や、今後関わっていただく方に向けて、今までの実績や取組などを整理し、振り返るための資料として、今後の方向性を考える際の資料として活用できればと考えている。
- ・平成18年ごろは、小平市だけでなく、他市も一斉にコミュニティバスの検討を始めていた。他市も公共交通の考え方について、見直しの動きはあるか。
 - （公共交通課）他の自治体はそれぞれ平成15年頃からコミュニティバスの動きが始まっており、半数程度の自治体は公共交通に関する計画を策定し、市としてどのように公共交通を充実させていくかを定めている。また、昨年に法律が改正され、全国の自治体が公共交通に関する計画を策定し、体系的に行政や運行事業者、住民が連携しながら公共交通の充実を図っていくことが努力義務化された。今後、近隣の自治体や全国的にも公共交通に関する計画や方針の見直しや策定が行われると考えている。
- ・自治会の中では高齢化を理由に退会する方が多い。また、学園東町地域センターの停留所を見ると、高齢者が多く利用しており、少し離れた商店街までシルバーカーを押しながら向かっているのを多く見かける。昨今では、宅配の生鮮食品を配達するサービスもある。高齢者にとっては、配達システムや、ゴルフ場のカートの様なゆっくり走るオンデマンド交通があると理想的だと考えている。コミュニティバスやコミュニティタクシーの利用状況をみると、駅と病院の利用者が多いため、高齢者が利用しやすく目的地まで簡単に行ける交通手段があったら良いと考える。他地域では、市電や都電を復活するニュースを見るため、小平市もそういった特徴のある公共交通を行ってはどうか。
 - （公共交通課）現在、ゴルフ場のカートのような電気自動車で、時速20キロ以下で走るグリーンスローモビリティという交通が、全国で少しずつ広まりつつある。観光用に

活用している事例もあれば、高齢者の生活交通として利用している事例もある。今後グリーンスローモビリティを導入する自治体も増えてくるかもしれない。

- ・ 80歳以上になると運転免許証を返納し、自家用車に乗らずに生活をする人が多い。しかし、ホームセンターで買い物をした場合などは、荷物などが大きく持ち帰ることが困難ため、多少時間がかかっても行き来が楽になると嬉しい。コミュニティタクシーなどは高齢者の利用者が多いと考えるがどうか。利用者の年代が分かるようなものはないか。
- (公共交通課) コミュニティタクシーなどを見ると利用者は高齢者が多い。後の議題である令和3年度ぶるべ一号利用者アンケート集計結果についての報告で、アンケートに回答している年齢層をお示しする。
- ・ 若年層は、各々の交通手段があるので、活発に生活ができるが、高齢者は交通手段が減ることも、外出が減っている要因の一つであると考えている。
- ・ 高齢者福祉の分野においても、生活支援体制整備事業などで移動が重要な課題である。そのため、高齢者の移動を社会福祉として何ができるか、また公共交通のあり方について、部署を横断的に連携する庁内の委員会で検討し、予算の無駄遣いがないよう進めて欲しい。
- (公共交通課) 庁内の検討委員会には、高齢者や障がい者の部署が入っているため、福祉的な視点での公共交通の役割と、その役割にどう対応していくかを協議していく。高齢者が運転免許証を返納したり自転車に乗らなくなったりすることで、不便を感じ、外出する機会が少なくなるという悪循環が発生する恐れがある。そのような現状を踏まえ、高齢者が外出を億劫に感じないような移動支援が求められていると認識している。
- ・ 学園東町や学園西町は一方通行が多いため、路線バスの停留所で乗車場所と降車場所が離れている場合があり、利用しづらいため課題であると感じている。

3 令和3年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績状況

(資料2-①) (資料2-②)

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

- ・ 利用者数が、徐々にピーク時に戻りつつあるという認識でよいか。
- (公共交通課) 利用者数は回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準に戻ることは難しいと考えている。理由として、新しい生活様式の普及や高齢者の買い物や通院の回数が減少していることなど、外出の頻度が大幅に減少している状況が生じている。そのような状況を踏まえ、コロナ禍において元の水準に近づける利用促進の取組は必要であると考えている。

4 令和3年度ぶるべー号利用者アンケート集計結果について

(資料3)

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

- ・グラフなどを見ると、新型コロナウイルス感染症の影響がとても大きいことを実感した。コミュニティタクシーの利用者は便利に思っていると考えているが、利用していない人にはアンケートを取りようがないため、アンケートの解釈が難しい。
- ・自治会の回覧を通して、コミュニティタクシーを利用していない方にもアンケートを回収することは可能である。
- ・コミュニティタクシーの土日運行についての意見が多く出ているが、コスト的に導入が難しいのか。

→ (公共交通課) 土日は平日に比べると、人件費等の経費が約1.5倍増加する。また、コミュニティバスの平日の利用人数の平均は、約530人程度だが、土曜日は約460人、日曜日は約360人である。コミュニティバスの利用状況から、コミュニティタクシーで土日運行を実施した場合は、更に利用者が減ると推測されるため、赤字がさらに増加し、補填割合も大きくなる。よって、費用対効果を適正に見極めた上で判断する必要がある。

コミュニティバスやコミュニティタクシーを利用していない方の理解も得られる仕組みを作る必要があると考えている。

- ・採算を考えると土日運行などは大変難しいと考えている。アンケートの中でも運賃を100円にして欲しいという意見があり、運賃を下げることで利用者も増えると考えられる。しかし、料金を下げることにより採算がどう釣り合うのかが、公共交通としての役割というのと議論になる。

余談として、極論、無料になれば利用者はかなり増えると思う、全額公費の可能性は全くないのか。また、新たな交通手段としてグリーンスローモビリティなどを活用すると、かなりの費用が掛かると考えるが、それができるような方向性は全くないのか。今までの小平市の公共交通のあり方としては、予算的にあり得ないということだと思うが、高齢者福祉や交通安全対策にもかなりの予算があるはずなので、うまく連携することで、実現可能ではないか。

- ・グリーンスローモビリティの様なバッテリーで動くバスは、自動運転のため、初期投資は多いが、運行コストはメンテナンス費用と電気代程度なので、土日の運行でコストが高くなるということはなくなるのではないか。

→ (公共交通課) 現状、小平市として全額公費負担は考えられない。限られた予算をどう分配していくかという中で、公共交通に比重を増やすと、他の行政サービスに影響が生じる。その結果、サービス低下につながり、不満が出てくることもある。公共交通は利用する方が、一定程度費用を負担するという考え方のもとで運行している。また、無償にすることで、民間路線バスやタクシーの民業圧迫になってはならない。

- ・サンクスクーポンのサービス内容が他の事業者には比べかなり豪華な内容となっている事業者があるが、経営者が公共交通に対して協力的で、寄付という形での協力なのか。
 - （公共交通課）事業者のご厚意で、このサービス内容になっている。
 - ・サンクスクーポンの利用で、事業者の業績が上がったなどの成功例があると、他の事業者にも広がり、助けになるのではないかと考えた。何らかの経営者の考えがあることが推測できる。
 - ・サンクスクーポンはどういった条件で貰えるのか。
 - （公共交通課）一日乗車券や回数乗車券を購入すると、サンクスクーポンが付いており、切り分けて、使用することができる。
 - ・アンケートを見ると、サンクスクーポンを利用している方がかなり少ないが、「サンクスクーポンを利用したことはありますか」の質問に対する回答者には、一日乗車券や回数乗車券を購入していない人も含まれているということか。
 - （公共交通課）そのとおり。乗車している方にヒアリングしたところ、サンクスクーポンを知っているが、普段利用するお店がサンクスクーポン参加店ではないため、利用していないという方もいる。
- サンクスクーポンの周知方法や協力店を増やすアイデアがあれば提案していただきたい。認知度が低いことや、サンクスクーポンを持っていても、使っていない方もいるため、サンクスクーポンを利用し、地域の商店に足を運んでいただくきっかけになれば良いと考えている。

5 バスとタクシーのひろば in 小平2022について

開催日時：令和4年5月21日（土）午前10時～

開催場所：ブリヂストン イノベーションギャラリー駐車場

○公共交通課から説明

6 コロナ禍における利用促進活動等について

○公共交通課から説明

◆ 質疑等

- ・コミュニティバスの車内に広告が出ているが、運行ルート沿線の商店の特売などの広告を無料で出してはどうか。
- 当自治会では、自治会参加商店の広告を自治会報に無料で載せる取組を今後行う予定である。コミュニティバスもそのようにすると、商店も利用者も便利になるのではないかと。
- （公共交通課）現在、コミュニティバスの車内広告は、有料で掲出している。
- ・事業者にも利用者にもメリットがある良い案があればと考えている。
- サンクスクーポンのリーフレットのようなものとして、こだいら観光まちづくり協会や小平商工会も色々な形で店舗一覧を作成しているが、補助金の交付先が違うため、合体することができない。

また、予算年度ごとに補助金が決まり、継続して事業を実施したくても、単年度の実施になることがある。そのため、効果が高いと見込んでも、一過性になりがちである。

そのような意味では、サンクスクーポンとは目的や手法が異なっているため、組み合わせでの作成はできないが、コミュニティバスを利用する方が増えるような施策があれば良いと考える。

なお、割引いた分は事業者が負担しているため、これ以上、特典を豪華にすることは難しいと思う。

- （公共交通課）サンクスクーポン参加店マップに掲載することで、お店のPRになるということで協力をいただいている事業者も多い。
- ・サンクスクーポンに載せるメリットとして、サンクスクーポンの利用をきっかけに来店につながるだけでなく、サンクスクーポンの参加店としてリーフレットに店舗情報が掲載しているだけでも広告効果は相当ある。
どのように配布されているかが重要であり、広範囲に配布して欲しい。
- ・コミュニティバスやコミュニティタクシーの運行ルート上には、観光地が少ない。観光地があれば、近くの商店での利用も増えると考えている。
- ・サンクスクーポンは、現在どこで配布しているか。
- （公共交通課）市役所1階の広報用のラックや市の公共施設、コミュニティタクシー車内で配布している。現在コミュニティバスは無いが、該当のページだけでも掲示することは考えられる。
- ・バス停にポケットを付けて入れるのはどうか。
- （公共交通課）利用が多いバス停にラミネートして貼ることはできると考えられる。配布先や掲示場所を引き続き検討し、観光地などをサンクスクーポンマップに記載することについても検討する。
- ・旅館やホテルに行くと、割引券などが置いてある。大きな旅館などでは、宣伝費を払う意味で置いている可能性もあるが、沿線の商店の割引券をコミュニティバスの車内に置くことは難しいか。
- ・観光目的の割引は、地域振興の部署が補助金を出し、割引いた額を後で補填しているところもある。理由として、利益率がそれぞれのお店で違うことが挙げられる。一律に5%を割引くと不公平が生じる。小平商工会で行っているクーポン券や割引券も事業者負担ではなく、小平商工会から補填している。

7 その他

◆ 情報提供

- ・小平商工会から、予算化されれば前回600店舗にご参加いただいた、スクラッチカード事業を行う予定である。また、11月に産業まつりを小平市役所の立体駐車場で実施する方向で検討している。

○公共交通課から説明

- ・市制施行60周年を記念してぶるべー号をデザインしたチョコロQを作製し、一日乗車券や回数乗車券とセットで販売する予定。
- ・市主催のイベントでは、単品での販売も予定している。
- ・納品、販売開始時期は、8月以降を予定している。